

## 健常人 (高年齢職員の活力)

### 文献

van Dongen JM, et al. A Cost-effectiveness and Return-on Investment Analysis of a Worksite Vitality Intervention Among Older Hospital Workers : Results of a Randomized Controlled Trial, JOEM, Volume 55, Number 3, March 2013: 337-346. Pubmed ID:23439274

#### 1. 目的

職場での活力介入と通常のケアとの比較における費用対効果と投資効率を分析する。

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

#### 3. セッティング

ヨガは職場で、運動は職場近くのフィットネスセンターで実習。昼食時か勤務時間後を選んで実習した

#### 4. 参加者

2つの病院から招かれた45歳以上の高年齢の病院職員で、(1)最低週16時間以上勤務していて、(2)身体運動を行なっても有害にならない、という条件を満たす730人

#### 5. 介入

バイタリティ・エクササイズ・プログラム(ヨガと運動プログラム) 1回45分/週1回  
Arm1:(介入群)ヨガ or 運動群 367名  
Arm2:(コントロール群) 対照群 363名

#### 6. 主なアウトカム評価指数

主要評価項目:The Rand-36 Vitality Scale(一般的活力)。副次評価項目:UWES Vitality Scale(職場の活力)、Dutch Questionnaire on the Experience and Evaluation of work(回復の必要性)、病欠日数や入院日数、医療費、欠勤や疾病休業にかかる費用の変化、介入による増分費用効果(ICER)、投資効率ROI、費用対効果CE。

#### 7. 主な結果

効果の群間比較: 普段の活力、職場での活力、回復の必要性、いずれにおいても両群間の効果に有意差はなかった。Resource use における群間比較: 追跡調査中、介入群894回のPVC(パーソナル・バイタリティー・コーチ)の訪問と459回のワークアウトセッション、392のヨガセッションが行われた。完全なケースを基準とし介入群と対照群とを追跡調査中に比較してみたが有意な差はなかった。コストにおける群間比較: 介入コストは平均で職員1人につき149ユーロ。追跡調査中の医療費、欠勤や疾病就業にかかる費用、トータルコストは対照群よりも介入群の方が高かった。増分費用効果: 一般的な活力 (ICER, 280)、職場での活力 (ICER, 7506)、回復の必要性 NFR (ICER, -258) .... このことは、活力介入は追加の効果ユニットを得るためには普通のケアよりもよりコストがかかるということを示している。経営者的見地からの投資効率: 追跡調査期間中、欠勤と疾病就業の労働者一人あたりの平均利益はマイナス。活力介入が生産関連の支出を増加させたということを示している。

#### 8. 結論

ヴァイタル@ワーク介入(職場での活力介入)は、社会的見地から見ても費用効率的ではなく経営者的見地から見ても費用削減的でないという結果だった。

#### 9. 安全性に関する言及

なし

#### 10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

(VEP群)191名 (対照群)194名 理由: 時間が無い、関心がない、モチベーションがない、健康上の理由、転職

#### 11. ヨガの詳細

なし

#### 12. Abstractor のコメント

本論文は高年齢職員に対する職場への活力介入について費用対効果と投資効率を分析することを目的としており、その調査、分析、結論までのプロセスは緻密で明確である。

#### 13. Abstractor の推奨度

職場の高年齢者に対してヨガを勧めるかどうかどちらとも言えない。

#### 14. Abstractor and Date

吉住 淳子 岡 孝和 2015.1.31